

# レジメ 札幌の朝鮮人強制連行

～ 各区の痕跡を写真で見ながら ～

はじめに

- ・「慰安婦」問題や領土問題などで韓国は怒っている。市民レベルの平和友好交流を。
- ・札幌・日本の子どもたちは教えられなくなって既に 10 数年、教育の効果がじわじわと…。
- ・国はどこをこだわるか：教科書の変化を見ると主に強制性で、その表現を薄めるか、否定するかである。

## 1. 朝鮮人日本人の移入時期は大きく見て2つ

- 1 時期：1910（明治 43）年韓国併合条約～1939（昭和 14）年、同時に同化政策実施。
- 2 時期目：1939 年秋～1945 年 国策による「強制連行」（3段階：募集・官斡旋・徵用）。

（1時期以降、蔑視と差別の中で生きることを強いられる）

## 2. 民間と国策（政府）

A 民間：周旋屋（釜山・元山・麗水）からタコ部屋に売られる（他に信用部屋）終戦まで続く。

B 国策：協和寮（協和会強制加入・管理運営、協和手帳の常時携帯）。1939 年札幌協和会結成。  
政府では内務省警保局（特高）と厚生省が管轄

中国人強制連行は 1944 年から。安倍首相は母方にあたる岸信介元首相を祖父にもつ。当時の東条内閣の商工通産大臣だった岸は 1944 年 2 月に「華人労務者内地移入促進ニ関スル件」を次官会議で決定し、中国人強制連行を始めた。

（朝鮮総督府、警察当局、職業紹介所、協和会関係団体などと密接に連携。日本列島全体が朝鮮人にとってタコ部屋だった）

## 3. 国策下の流れ（順）

建設・鉱山等の事業場の申請数決定 → （道）府県長官宛募集申請 → 厚生省査定 → 朝鮮総督府の募集すべき道の割当 → 募集員朝鮮渡航 → 総督府 から指定された道庁 → 指定郡庁 → 指定面事務所 → 面事務当局 → 区長警察署又は駐在所。朝鮮内の役人（高官）・警察はほぼ皆在朝の日本人。（面=村）

\*面有力者の協力の下に行われた。「募集」の形式をとっているが、募集目標に達しない場合は官吏や警察、面有力者が加わっていて強制がなされた。（『朝鮮人強制連行の記録』朴慶植著 未来社 1965 年）

## 4. 第1陣、手稲・豊羽等の各鉱山へ（1939 s 14 年 15 年。報じる当時の新聞記事）

行き先を告げず、車窓を閉じ、現場到着後、「募集条件と違う」ともめた。『龍案』のストライキなどは『特高月報』に特高が鎮圧した事例がある。『慰安婦』は憲兵の管轄

## 5. 関係者証言

- ①募集員、現地で待機・連行：豊羽鉱山の田中豊治さん、後藤芳夫さん、渡辺実さん、小泉誠宏さん
- ②拉致された金達善さん

## 6. 各区では（写真・地図等の資料別紙）

「札幌における朝鮮人労働一覧」（1989 年作成）別紙

東区：丘珠飛行場（1943～1944）B・A

手稲区：手稲鉱山（1939～1945）・同貯水池（1936 年～）B 18 年～20 年

南区：豊羽鉱山（1939～1945）B、本竜鉱山など他に 6 箇所が考えられる

北区：北 24 条飛行場軍用滑走路挖掘工事（1944）A？

中央区：北部軍秘密地下司令部壕（未完成、宮の森神社山、少年工も、1945）B

豊平区：北部軍司令部、防空作戦室（地上 2 F・地下 3 F、コンクリート製、1943 年～）B、

月寒公園斜面北部軍用隠匿物資穴掘り（1945）B

（軍施設は秘密保護上憲兵が監視・監督）

## 7. 個人補償は未解決、賠償問題は「経済協力」にすり替え

- ・日本人との差別待遇、未払い賃金も対象のはずなだが。
- ・1965 s 40 年の「日韓基本条約」（佐藤栄作と朴正熙）には賠償、個人補償の双方に大きな問題がある。
- ・基本は、日本政府が被害者の立場になって言われなくても、ましてや裁判になる前に進んで誠意を持つて事実を認定し、謝罪することである。

## 8. 語り継ぐ（事実を伝える。学校＝教科書、社会教育）

語る会でも教科書改善要求、講演・FWなど

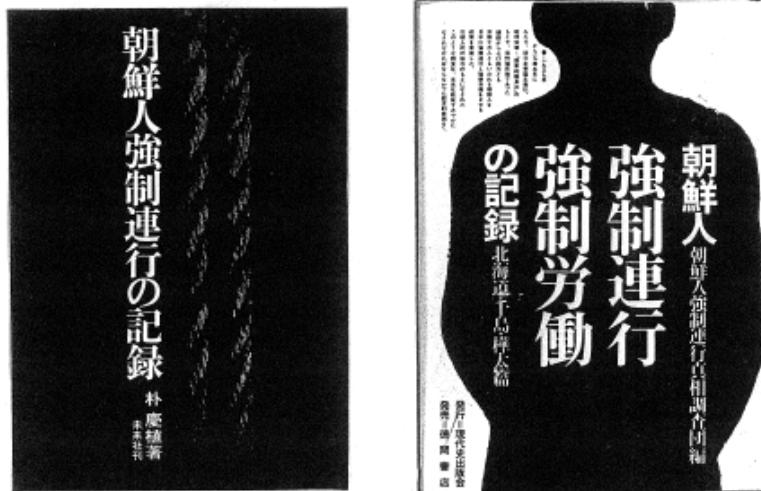
小松豊

（1947 年生まれ。元中学校社会科教員、札幌郷土を語る会、民衆史道連、平和憲法草の根普及会）

## 資料

# 札幌の朝鮮人強制連行

～ 各区の痕跡を写真で見ながら ～



2014年5月17日

小松豊

連絡先：007-0807 札幌市東区東苗穂7条3丁目7-16  
T・F 011-785-2622

# (はじめに) (改悪された教科書)

労働力不足を補うため、強制的に日本に連行された約70万人

- 5 の朝鮮人や、約4万人の中国人は、炭鉱などで重労働に従事させられた。さらに、徵兵制のもとで、台湾や朝鮮の多くの男性が兵士として戦場に送られた。また、多くの朝鮮人女性なども、従軍慰安婦として戦地に送り出された。

26/1P

## ◆地域から歴史を考える

### 朝鮮・中国から強制連行された人々

●朝鮮人・中国人の強制連行は、どのように行われたのだろうか。また、連行された人は、どのような労働を強いられたのだろうか。



●強制連行された人々の慰靈碑(北海道常呂郡留萌町)

教育出版『中学校歴史』1998(H10)発行

筑豊(福岡県)の炭鉱の金さん  
金大植さんは、1943年2月、家で寝ているところを警察官と役場の職員に微用令状をつきつけられ、集合地まで手錠をかけられたまま、125名の朝鮮人同胞とともに日本に連行されてきた。

日本へ送られる途中の監視は厳しく、  
便所へ行く時にも7人の監視係の目が

光っていた。<sup>10</sup>一行が福岡県の田川後藤

この結果、七〇万とも八〇万とも、一説には一五〇万人ともいわれる朝鮮人が強制連行されました。

募集・拉致・強制連行は朝鮮総督府から村々の末端機関(含職業紹介所)の責任のもので、朝鮮労務協会(一九四一年設立)という専門機関が主として遂行しました。日本・満州に連行された朝鮮人は、内務省(特高)・厚生省を中心につくられた協和会によって管理されました。管理といっても主な目的は、逃亡防止・同化(皇民化)の指導、抑圧・監視でした。

在日朝鮮人はこの会に強制加入させられ、「会員章」の常時所持を義務づけられたわけです。

#### 協和会(協和事業団体)

協和会は一九三四年(昭和九年)年の閣議決定にもとづいてつくられました。「中央協和会」の理事・事務には、厚生省・内務省特高・朝鮮総督府の局長、課長級の役人がなりました。道府県の協和会には、会長は全て知事、副会長には学務・警察両部長(東京では警察部長のかわりに警視庁特高部長・京都では市長)があり、事務所は道府県の社会課におかれました。さらに、各警察署長を会長にした各支会協和会(一二二四カ所)がおかれ、その下に一〇〇二〇世帯ごとに補導班が

**皇民化政策** 戰争が激しくなると、日本は総力をあげて戦争にのぞむため、植民地の朝鮮や台湾の人々を「皇國臣民」にする政策を行いました(皇民化政策)。学校では、「国語」として日本語が教えられ、朝鮮語や中国語の使用が禁止されました。また、皇居に向かっての敬礼や、各地に建てた神社への参拝を強制しました。さらに朝鮮では、日本式の名前に変える創氏改名も行われ、台湾・朝鮮の人々からも徵兵を実施しました。日本国内で労働力が不足すると、企業などで半ば強引に割りあてを決めて朝鮮人や中国人を集め、日本各地の炭坑・鉱山などに連れて行き、低い賃金でひい労働をおしつけました。<sup>239</sup>

213P

帝国書院『中学校歴史』2012(H24)発行より

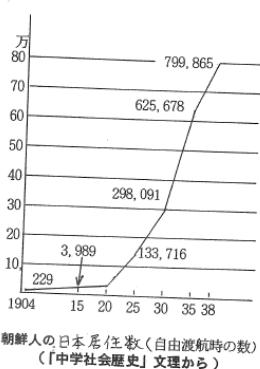
参考文献も付属使用

ところが日中戦争の拡大・長期化・泥沼化するにつれて国内の労働力が次々と兵士にとられ不足し、これまでの自由募集では不足分を補充することができなくなりました。そこで政府は、一九三九年から労働力の大量安定確保を目的に自らのりだし、行政機関をあげての労働力移入計画を遂行しました。いわゆる強制連行(一九三九年～一九四五年)ですが、そのやり方には三段階あります。

第一期 「募集」方式  
一九三九年九月から四二年五月まで

第二期 「管轄施設」方式  
一九四二年六月から四四年八月まで

第三期 「徴用令」方式  
一九四四年九月から四五五年の敗戦まで



朝鮮人の日本居住数(自由渡航時の数)  
(『中学校歴史』文理から)

第三期は文字通りの強制連行ですが、第一、二期とも目標数に達しなければ、寝込みや野良仕事中をおそったという体験者の証言のように、まさに奴隸狩り方式でかき集めました。もっとも「役人からこの家から一人出せ」といわれたら出さないわけにはいかない。出さないと配給物資が与められる(体験者の証言)という手段もあったのです。

あり、補導員がおかされました。

要するに朝鮮人にとっては、日本列島全体が大きなタコ部屋そのものだったわけです。協和会の仕事の一つに「不良朝鮮人の送還……」というのがあります。「不良朝鮮人」とは協和会の仕事を「防害」する朝鮮人のことを指していました。

札幌協和会は一九三九年（昭和十四年）

一月二三日に結成されました。当時の新聞によると午後一時から札幌にて札幌市内に在住する朝鮮人百五〇名と特高課長、札幌市長、札幌職業所長、地図組員他多数の参加のもと開かれたとあります。

当時の市内在住朝鮮人數百五〇名の正否は別にして、札幌で強制連行された朝鮮人労働者の数は現在までの私たちの調査で明らかになりました。数でさえ十一ヶ所延べおよそ九千人にのぼります。

その中には、朝鮮人北大生が日本人と連帯して行った独立・抵抗運動や組合支援運動がありました。また、先にも述べたように北二四条の札幌飛行場拡張工事での朝鮮人飯場における民族主義的行動もありました。

いずれにせよ強制連行されてきた朝鮮人はこのような総監視・管理のものに、鉱山・炭鉱などわめて危険度の高い箇所や飛行場の建設など急がれる工事に投入され、日本の侵略戦争に加担させられたわけです。

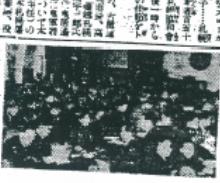


出典：『海峡の波高』

札幌強制労働人強制連行を剪影  
シリアル  
1939年

## 半島人結ぶ

佳日札幌協和會設立



札幌協和会結成（当時の新聞記事）

(2)

	渡航	帰還	居住	人口	
				(A)	(B)
1931	140,179	107,420	311,247	437,519	
1932	147,597	103,452	390,540	504,176	
1933	189,637	113,218	456,217	573,896	
1934	175,301	117,665	537,695	689,651	
1935	112,141	105,946	625,678	720,818	
1936	115,866	113,162	690,501	780,528	
1937	118,912	115,586	735,683	822,214	
1938	161,222	140,789	799,878	881,345	

出所：渡航、帰還、居住人口（A）は内務省調査、居住人口（B）は国勢調査

表2 1939—45年在日朝鮮人人口動向

	渡航	帰還	居住	人口
(A)			(B)	
1939年 (5/4)	316,424	195,430	961,591	1,030,394
1940	385,822	256,037	1,190,444	1,241,315
1941	368,416	289,838	1,469,230	1,469,230
1942	381,673	268,672	1,625,054	1,625,054
1943	401,059	272,770	1,882,456	1,768,180
1944	403,737	249,888	1,936,843	1,911,307
1945 (1~5月)	121,101	131,294	2,365,263 註	2,100,000

（註 この数字だけは「日本残酷物語」第5部による）

↑出典：  
朝鮮人強制連行  
強制労働の記録  
徳間書店  
1974年  
現代史文庫会

## 七百余名の半島人

## 初春の“をたら”へ上陸

1940(S15).1.7  
小塘新聞

おもせで丁度入来木と妻の、娘の嫁といふ  
被服人ひふじんの呼よびと三國志裏の調査しらべを  
うけて原住はるすと呼よんで、小指環こしゆわんへ通す  
し千歳せんざい、大金だいきん、鳴ノ舞なるまい、鹿羽しかば、手  
綱てつな、大盛だいじょうの倉くら山やまへ分散ぶんさんして別離べつり  
出發しゆぱつした

賑やかに各鑛山へ夫々分散！

(S14) 10.5

半島勞務者來道

待望の三百二十餘名

世田谷山田地主、島谷汽船會社社長改  
丸(1700トン)で三日泊一泊

故郷を出てからよしとおしかへ  
ます、初めて船に乗った筆者  
だから酔つて御飯を食へな  
いとおもひ

その中で優秀の人々を選んで契約が結んで今回第一回の戦費となつたわけです、これ等の人々は皆免責上で無条件で居のま

止合競合以来内地移民が出来特  
る原因に難かれてゐた。軍事生  
道開、業者が種々協議を経て結

了身附で呑くした人も西山なので心配したが西館についても心配した。西山に行くとねむしの心配したが西館についても心配した。

したから金剛の方の仕事に参り、  
めて、ですが調査によつて相続の  
威儀を取めるものでないかと思つ  
てあります。

景の慶和館が断行されるに至つたのであるが、主に慶氏であり打撃は、不作により會社、道義、行止の三事に罹る。

前回まで一ヶ月にわたつて出立  
詔書未裏のため暫く命に別定して三

## 西宗職業課長談

四年生の本郷昌の問題と共に契約となり三ヶ月の間隔と二年間の契約となつて毎年都是二十歳より四十歳迄で三歩

てゐる人は随分質の悪い人々で、したがって半島人自身が隣居となりてなりました。半島人は大阪方面へ移動を行ひ度いとす。

半島人の本道移民は本道労力耕作の底の抗辯需要なる任務を専らよりので今回は第一回目だが一つは「労力調整」とつて半島人の生活改善を主たる目的とする。

山に三百名、岡社・鶴巣山に三十名  
義勤、桂選は内地人同様に境内三  
四百の四隅、左二三面より三面の

北海道は非常に遙んで又熱心です、北海道に對しては認識がまだいたために色々曲解されましたが、よく説明した結果皆納得して

内地生活の精神といふことになるのをいかと思惟される次第です。

## 西宗雅樂課長談

1



## 二、「私は連行した」

田中豊治さん

〔証言一〕 A氏（元豊羽鉱業所社員（守衛・連行の仕事））  
私は昭和一六年から八年まで札幌市の定山渓の奥にある日本鉱業豊羽鉱業所というところに就職しました。当時、今の中国から兵隊で帰って来ましたが、各鉱山とも食物が非常に豊富でした。そういうことで私の友人が朝鮮人の指導員をしておって、是非来なさいといふのでお世話をすることにしました。仕事は朝鮮人の指導員ということで、当時外勤といつて今の守衛ですね、それで仕事の内容は朝鮮人の合宿（協和寮）の勤務で坑内労働者の移動を指導していました。

かたわら、二年契約で朝鮮から徴用になった人々を北海道の炭鉱に連れてくるような仕事をおうせつかいました。……確か昭和一六年に二三回行きました。徴用というのは、日本鉱業と朝鮮總督府との間に契約がなされたように考えられます。というのは、私が行きますと仕事は何もないですが、たゞ夜は警察官、市町村長、そういう人々を呼び、毎日のように芸者あげての接待をしました。そのようして、だいたい一ヶ月くらい旅館において、二百人の目標人数が集まるまで待ちました。集めるのは面長（村長）が集め

13

12

そういう情報が全部入っていて、大阪駅で停車中に何十人と逃げた者は逃げた者で放っておきました。特高も乗って下関まで行きますが（通訳がついて）、そういう状況について一言もいません。逃げたのは、帰つても徴用が待っていたからでしょう。

私、朝鮮人を送つて行った時、朝鮮人に殺されそうになつたことが一回ありました。というのは、日本人によって虐待された恩返しですね、釜山上るとガラッと態度が変つてしまします。今度は恩返しをしてやろうということなんでしょう。ところが私具は下つ端で若かったから、あの責任者の中にはひどい目に会つた人もいます。この耳で聞いたのですが、あれは確かに大連の町でした。旅館に泊つている時襲われもう太変な目に会つたそうです。

〔証言二〕 B氏（同鉱山元社員（連行・勤労の仕事））

私が連行した人数は左記の通りです。  
昭和一四年 全羅南道より……一〇四名・昭和一五年二月 忠清南道より……六四名  
昭和一五年秋 忠清南道より……約二百名・昭和一六年一月 京畿道より……約三〇名  
昭和一六年秋 慶尚北道より……約一〇〇名・昭和一七年 黃河道より……？名  
契約年が過ぎて帰る人は約40名で他は契約を延長しました。  
昭和二〇年、九月一班、十月一班、一一月三班、一二月四班と朝鮮に返しました。小樽です。

14

15

C渡辺実さん

より一人残りました。D小泉誠彦さん  
連行は長官に申請し、朝鮮總督府に行くと道まで指定される。その後、道の方で郡・町・面の指定を受けます。警察（日本人）の紹介で村をまわり健康診断をします。

〔証言三〕 C氏（同鉱山元社員（連行・守衛の仕事））

二年契約で一百人ぐらいずつ連れてきます。募集の朝鮮人（強制みたいなもの）を鉱山ま

で連れてくるのに一ヶ月かかりました。昭和二〇年、引き上げるのに三ヶ月以上かかりました。

〔証言四〕 D氏（同鉱山元社員（大盛鉱山（森）で連行の仕事））

昭和二〇年～二七年の間に一回朝鮮人を連行しました。朝鮮に連れて帰る時、大阪の駅で二人逃げられました。

その当時、考えますと、微用で来たものですから、どこの炭鉱に行くとは向うでは的確な指がなかつたようで、北海道の現場に来てから大變もめるわけです。「条件が違う」とか、「鉱内に入るという条件はひとつも聞いていなかった」とかいうようなことでもありました。

帰りのことですが、来る時は全部揃つて来るわけですが、二年間終つて帰りになると事故で亡くなつた方や、あるいは途中で列車の中から逃げる人があつて、二百人が百人から百十人くらいになつてしまします。朝鮮人の人が大阪とか東京とか名古屋とかに沢山いて、だけの方法で狩出した。（以上、朴慶植著・未来社刊「朝鮮人強制連行の記録」より）

◎朝鮮人強制連行の順序

事業場の申請数決定→府県長官宛募集申請→厚生省査定→總督府の募集すべき道の割当→募集員朝鮮渡航→總督府→指定された道府→指定郡府→指定面事務所→面事務当局、区長警察署又は駐在所→面有力者の協力の下に行なわれた。「募集」の形式をとつて強制がなされた。一応は募集のポスターが道、邑、面、官吏や警察、面有力者が加わつて強制がなされた。一応は募集のポスターが道、邑、面、洞の事務所にられ、一般に認知させ、いつまでどこに申込みと明記してあるが出来る

三、「農道を歩いていると、いきなりトラックに」

金達善さん

現在札幌在住の金達善さん（六九才）は、当時のことをこう語ります。

「たしか、昭和一四年の八月一五日のこと。朝、家を出て田舎道を歩いていると、後からトラックがやってきて私の前に止まつた。

二人が降りてきて、どこへ行く。と聞くので、親戚のところへ遊びに行く。と答え

ると、いや、すみそこだからいい。乗らない。と言う。

「いや、すみそこだからいい。乗らない。と言う」と、しつこく言われついには、かかえられて無理矢理トラックに乗せられた。

当時二〇才前の農家の息子金さんは、農道歩行中、文字通り強制

連行されたのです。



1939年当時の朝鮮半島の地図

金さんを拉致した二人の男につ

16

17

## 半島労務者大部隊 全國に駆けめぐらして

三日 半島各嶺山に配給される

いて、「人は、朝鮮人の通訳で、もう一人は、日本人だった。」といいます。  
また、「その日本人は、頬が細くて特徴があったので今でも忘れない」ともいいます。  
ところで、政府による強制連行は、金さんが拉致される約二〇日前に正式決定されています。一九三九（昭和一四）年七月四日、政府（平沼謙一郎内閣）は、國家総動員法にもとづく閣議決定で、「昭和一四年労働員実施計画編成」を定めました。国家権力による朝鮮人強制連行は、この時から組織的・計画的に始まったのです。



第一陣函館入港を報じる小樽新聞（S14.10.2付）

どーは、早いものは九月から各企業の代理人（社員など）を朝鮮に送りました。警察と役所は、代理人と連絡・接触をとりながら割り当てられた人数を目標にして、「募集」・拉致の方法で朝鮮人のかり集めに奔走しました。代理人は、期限までに目標数を集めもらうために、巡回や役人におみやげを持っていき、旅館などで芸者をあげて接待し、だいたい一〇〇名集めるのによそ一ヶ月かかります。

連絡をうけた代理人は駅までいき、目標人數をきりの朝鮮人をそこでうけとり、日本の自社の割り当て地域は、干害で被害の大きかった朝鮮南部の七道（京畿・忠清南北・全羅南地・慶尚南北の各道）に集中していました。金さんは、大正九年五月五日生れ、慶尚北道ソウ州郡イーナン面シンチヨ里の出身です。



第3回札幌民衆史講座で証言する金達善さん（87.11.2、参加者150人）

当初、割り当て地域は、干害で被害の大きかった朝鮮南部の七道（京畿・忠清南北・全羅南地・慶尚南北の各道）に集中していました。金さんは、大正九年五月五日生れ、慶尚北道ソウ州郡イーナン面シンチヨ里の出身です。第一陣（十月三日函館入港）を報じる当時の新聞をみますと、八月に拉致連行された金さんは、

19

18

金氏が連行された経路図

おそれて「募集方式をとりました。それでも、目標数（村ごとの割当数）に達しなければ、金さんの場合のように「人間狩り」式で不足数を補わなければなりません。

強制連行が政府決定すると、人數の割り当てをうけた企業（組）一炭鉱・金属鉱山・土建な

年月日に記憶違いがなければ、いわゆる強制連行の「青田買い」の類だったのかもしれません。

車には、一八、九人の男がいて、その中に一六、七才の少年も七人くらい乗っていた。  
どこへ行くのか。と聞いても、知らない。というだけ。誰も行先はわからなかつたようだ。それで、日本人に聞くと、行けばわかる。というだけだった。

そのまま郡まで連れて行かれ、旅館で一泊させられた。百人くらいいただろうか。私の村から来たものも二〇人くらいた。ほとんどの人が無理につれてこられたようだった。服装は、南京袋でつかったようなものだと、えられたので、かゆくてたまらなかつた。翌日夕方三時半頃、旅館を出て汽車で元山まで連行され、旅館に一泊する間に人がふえ三〇〇人くらいになった。見張りがいたので逃げるに逃げなかつた。

次日の四時三〇分頃、三〇〇人は全員船に乗せられ、五時半頃汽笛がなって出航した。

なぜか泣けて仕方がなかった。

船は貨物船で、船底に入れた。窓もなく外は一切みれなかつた。船が揺れ、吐かれたものの上に人がころがつたりした。

二年後の契約でやつてきて到着したところは、函館。家族は、三ヶ月後に出した手紙で初めて知った。」

函館で降りた金さんは、窓にカーテンをされた汽車で内浦湾に面した静狩金山に連れていかれました。その後、室蘭、北湯沢の蟠溪へと戻りとして敗戦を迎えました。室蘭時代では、室蘭本線工事(豊浦付近)のタブ部屋に人夫ひっかけを目的とした計画的潜入もしています。

「戦後、札幌の豊平に住んでいた頃、大通にある保険会社で偶然、私を拉致した日本人に出会いました。相手は、その時の日本人であること認め、朴本という朝鮮風の名を名のりました。あとで同会社にいってみましたが、もういませんでした。勿論、一言もあやまりませんでした。」

金さんは、戦前札幌で働いた体験はありません。

私たちも、この数年間札幌で強制労働に従事した経験のある朝鮮人を探してきました。

当調査では、十ヶ所で約九千人(延べ人数)の朝鮮人が札幌で強制労働をしています。重複部分を差し引いても実数は数千人にのぼります。敗戦当時の諸事情を考慮すると全員帰

国できたとは考えられません。もっとも、「民族の裏切り者」「加害者」とよばれた朝鮮人幹部は、報復をおそれて帰るに帰れなかつたといわれます。ですから、「絶対にいる」というのが私たちの仮説でした。

実際、いました。その人は、南口石山にある硬石山(昭和一八〇—二〇年の朝鮮人労働)の飯場で通訳を兼ねた幹部だった人です。しかし、会つてくれませんでした。

その後も、私たちはいろいろな機会に注意を払ってきました。新聞で体験者も募りました。名のり出たのは、地方の体験者でした。

そこで、今年は、全国にいる韓国人、朝鮮人の方々二〇〇数名に手紙で体験者の紹介を依頼しました。

南北の団体、学園、新聞社にもお願いしました。韓国人に帰つて生存している方にもと思い、東亜日報、東京支社にもお願いしました。

東京支社にもお願いしました。

## 戦時の朝鮮人強制運行

札幌市における朝鮮人労働の会  
中間発表と新証言を募る「朝日新聞」  
('87. 10. 31付)

第3表 日本人・朝鮮人の賃金格差(1923年)

大 腹	朝鮮	
	日本人	朝鮮人
農作夫	2.00円	1.60円
洗濯夫	2.00	1.80
色染工	2.10	1.20
メリヤス工	2.20	1.30
紡績工	1.70	1.20
ガラス工	1.60	1.20
沖仕	2.50	2.00
人夫	1.90	1.70
土方	2.50	2.00
坑夫	2.50	2.10

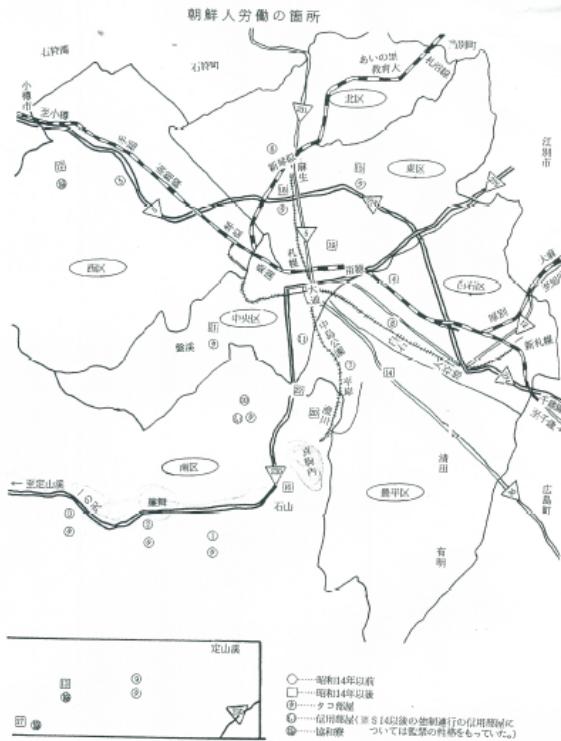
大阪府社会課『朝鮮人労働者問題』——林在一『在日朝鮮人に関する総合調査研究』より。

実現:『朝鮮人強制運行・強制労働について』  
篠山書店 1977年 現代史出版企

紛争議一覧表(昭和一四年十二月現在)		業種	労働者	参加者
府県	種別			
北海道	労働者	三札幌市	会社	労働者
北海道	労働者	手稲鉱山	会社	労働者
北海道	労働者	解11月8日	労生	労働者
北海道	労働者	決11月7日	労生	労働者
北海道	労働者	二九二	二九三	二九三
北海道	労働者	二九二	二九二	二九二
北海道	労働者	出典:『昭和特高爆破』6 明石博隆・松浦義三編 太平洋出版社刊 1975年	明石博隆・松浦義三編 太平洋出版社刊 1975年	明石博隆・松浦義三編 太平洋出版社刊 1975年

### 札幌における朝鮮人労働一覧

工 期	工 事 名	朝鮮人労働者
① T 7年	定山渓鉄道(南区)	朝鮮人もいた
② T 9年	簾舞発電所(南区)	✓
③ T 15年	一の沢発電所(南区)	✓
④ T 15年	千歳線工事(苗穂~苦小牧)	✓
⑤ T 中~3初	下手船排水組合水路工事	✓
⑥ T 中~8初	新琴似排水組合水路工事	✓
⑦ S 3年	平岸村道路改修工事	朝鮮人42人
⑧ S 6年	白石第二治水工事	朝鮮人もいた
⑨ S 7年	地崎道路(定山渓~朝里)	朝鮮人半分位いた
⑩ S 11年	藻岩発電所(南区簾舞~藻岩下)	朝鮮人のみの飯場8つ
⑪ S 12~20年	豊平川砂利採取・碎石作業	朝鮮人もいた
⑫ S 14~20年	手稲鉱山(西区)	朝鮮人大変多くいた
⑬ S 14~20年	豊羽鉱山(南区)	✓
⑭ S 15~20年	北部軍指揮部地下(月寒)	朝鮮人もいた
⑮ S 18~19年 (17)(20)	丘珠飛行場(東区)	朝鮮人大変多くいた
⑯ S 18~20年	硬石山碎石・運搬 (南区石山、千歳飛行場へ)	朝鮮人多くいた
⑰ S 18~20年	日鉄本龍鉱山(南区・中山峠)	朝鮮人もいた
⑱ S 18~20年	札幌飛行場拡張工事 (北区N24W 7付近)	朝鮮人多くいた
⑲ S 19年	市内迷彩工事	朝鮮人もいた
⑳ S 20年	軍用物資貯蔵用穴掘り (南区澄川、少年兵)	全部朝鮮人
㉑ S 20年	北部軍指揮部地下廻 (中央区神社山)	朝鮮人大変多くいた
㉒ S 20年 (戦後)	豊平川砂利採取(藻岩橋付近)	朝鮮人もいた



資料 1

### 札幌の朝鮮人犠牲者一覧

1989. 8 現在

氏名	日本名	年齢	工事名	死亡年月日	死因	根拠
金 勝昊		48	藻岩発電所	S 10. 1.22	不明	過去帳
金 尚守		39	✓	S 10. 2. 5	✓	✓
	山本 清吉	35	✓	S 10. 6.14	隧道 土砂崩落 (S10.6.16付)	新聞
朴 今壽		29	✓	S 10. 8.12	隧道 岩石落下 (S10.8.13付)	新聞と 過去帳
李 成万			手稲鉱山	S 14.11. 7	落盤	「特高月報」 (S14.11.12 月分)

(以下、傷害)

(発生年月日) (原因)

李 成佐	木村 一郎	43	第3治水工事 (白石村字 白石25)	S 6. 5.31	歩行中 轟撃乱打	新聞 (S6. 6. 2付)
白 學基	久保田正雄	37	藻岩発電所	S 10. 2.22	袋叩き	新聞 (S 10.3.2付)
金 昌渡	久野金之助	36	不明	不明	喧嘩	新聞 (S10.10.10付)

※当時の見聞者の証言による犠牲者は、除いた。(氏名不明の為)

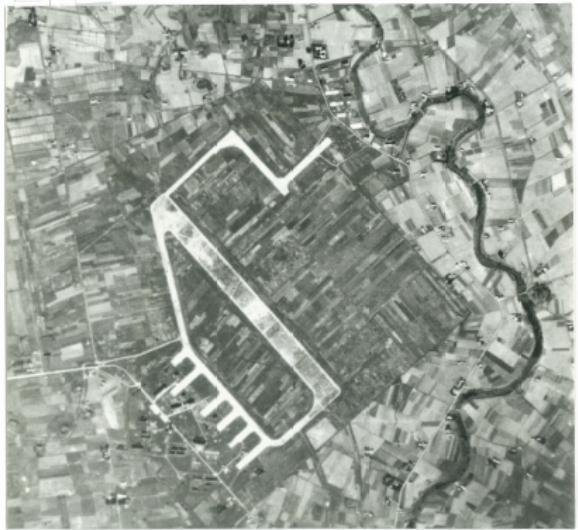
※朝鮮人同士の喧嘩による犠牲者も除いた。

※新聞は、全て「小樽新聞」である。

※これらの犠牲者は、氷山の一角と考えられる。

110

## 東區・丘珠飛行場(現存)



強制連行乞求朝鮮人

就寝前、宿舎で『みたみわれ』を朗唱する手嶌鉢山の朝鮮人労働者

A photograph of a large, mature tree with a thick, textured trunk and spreading branches, growing in a grassy field. The tree is the central focus, with its trunk extending from the bottom right towards the top left. The surrounding area is covered in green grass and other smaller trees or bushes. The lighting suggests a sunny day.

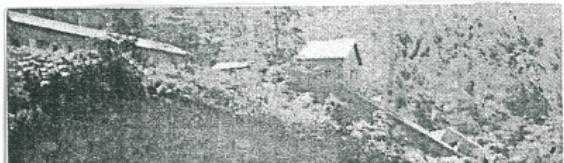
手稿区  
手稿鉱山



還鉛場巨大殘骸



東洋一と言われた運転場（茂内義雄さん所蔵）



黄金沢 朝鮮の人たちの飯場もありました  
(朝鮮人のコロ部屋かも) (土屋一美氏提供)

南区  
豊羽鉱山



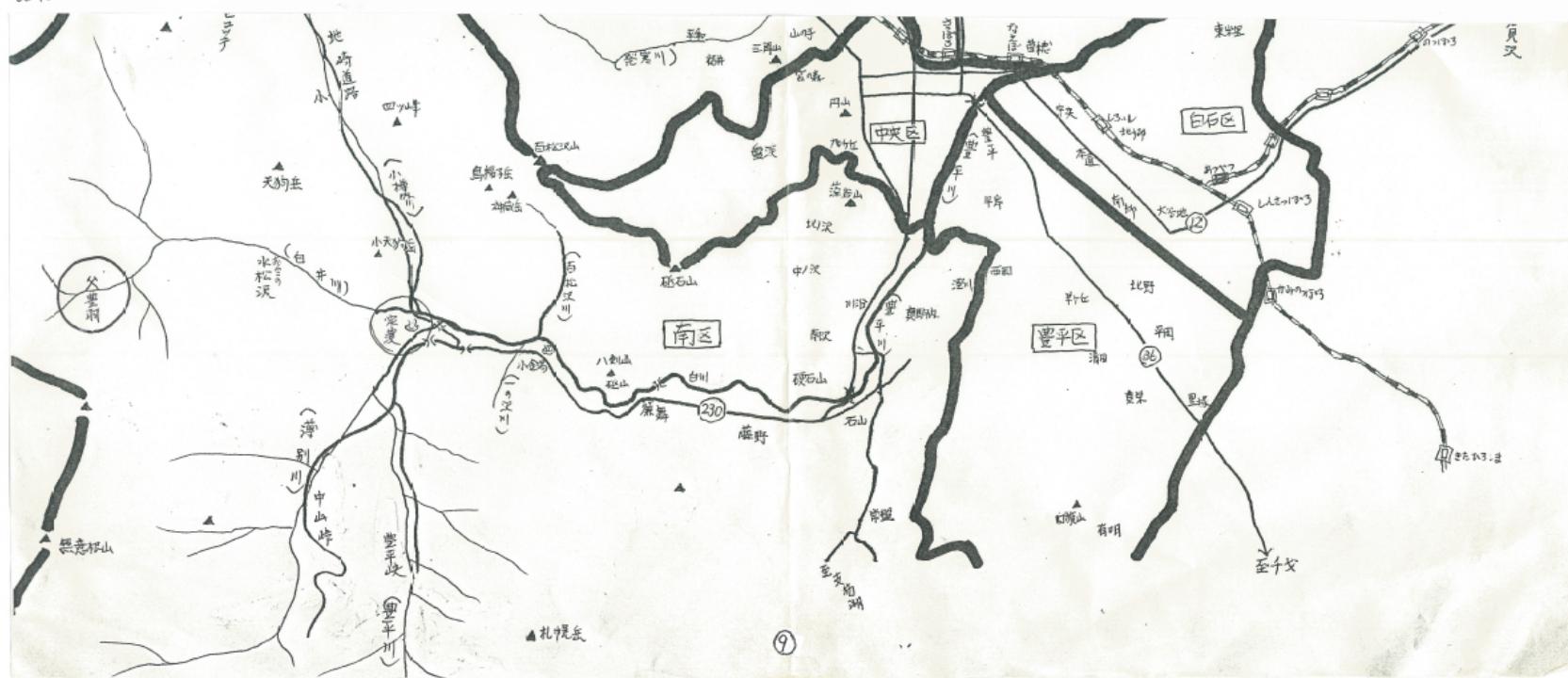
本山 正面事務所



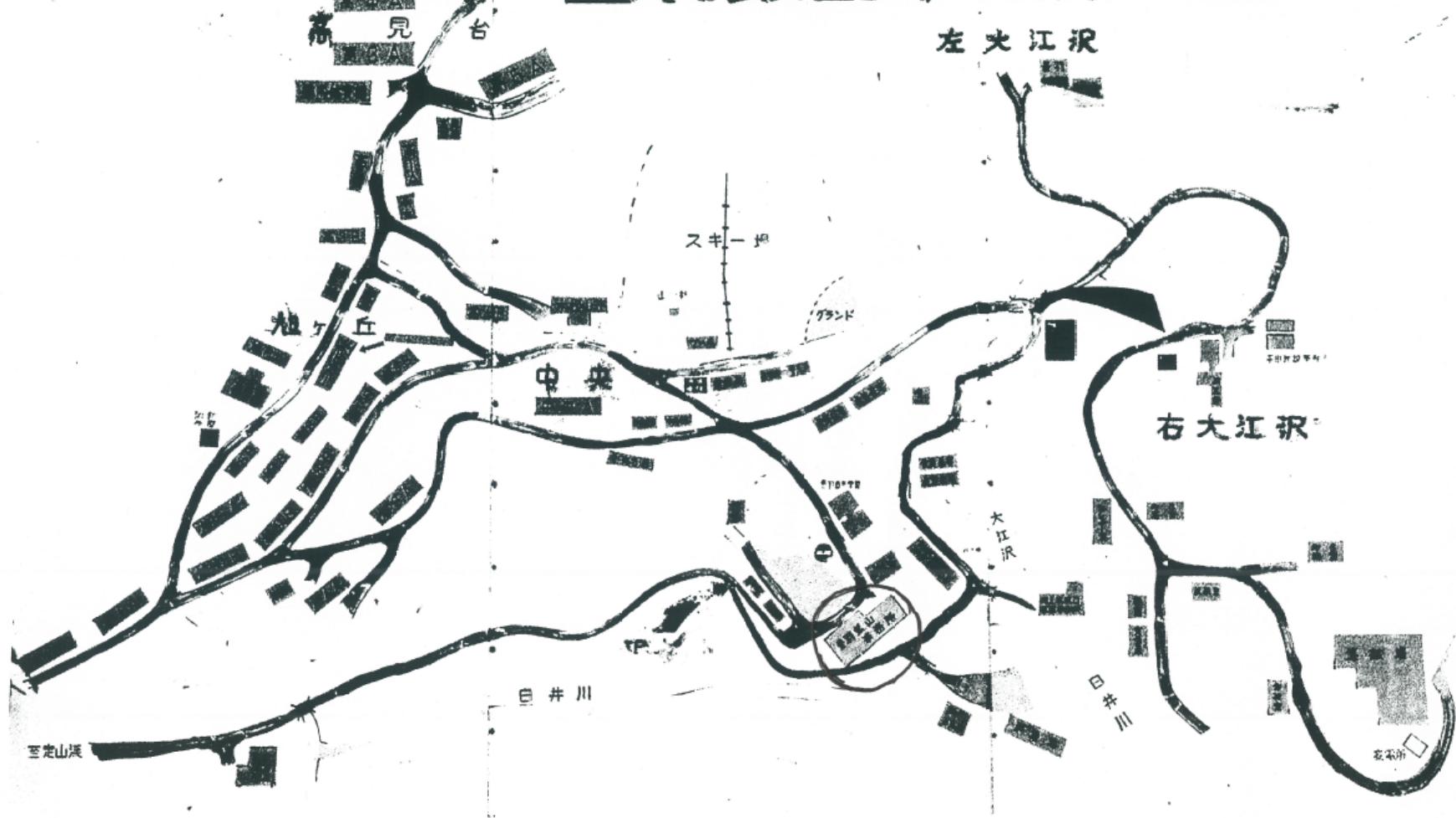
立坑入口



废水处理场



# 豊羽鉱山本山案内図

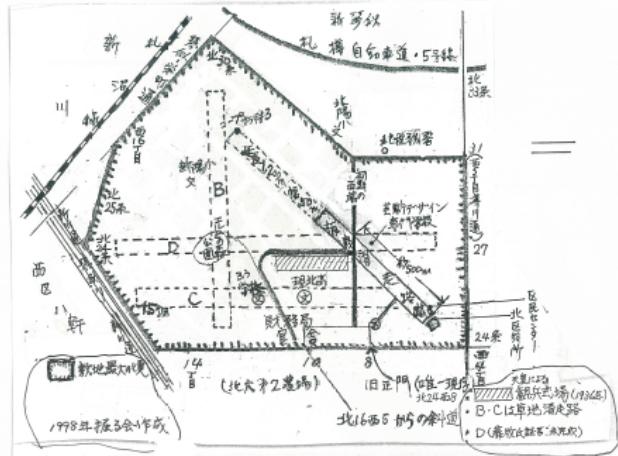


北区

## 札幌飛行場(北24条西10周辺)



- ①西5丁目通
- ②北24条通
- ③航空局
- ④日本航空輸送格納庫
- ⑤訓練所事務棟
- ⑥・⑧北海タイムス社格納庫
- ⑦訓練所格納庫
- ⑨九七式戦闘機



中央区 北部軍秘密地下司令部  
神社山内(木)



神社山



八  
口

月寒公園斜面北部彈司令部隱匿物資穴



右土肥春雄氏

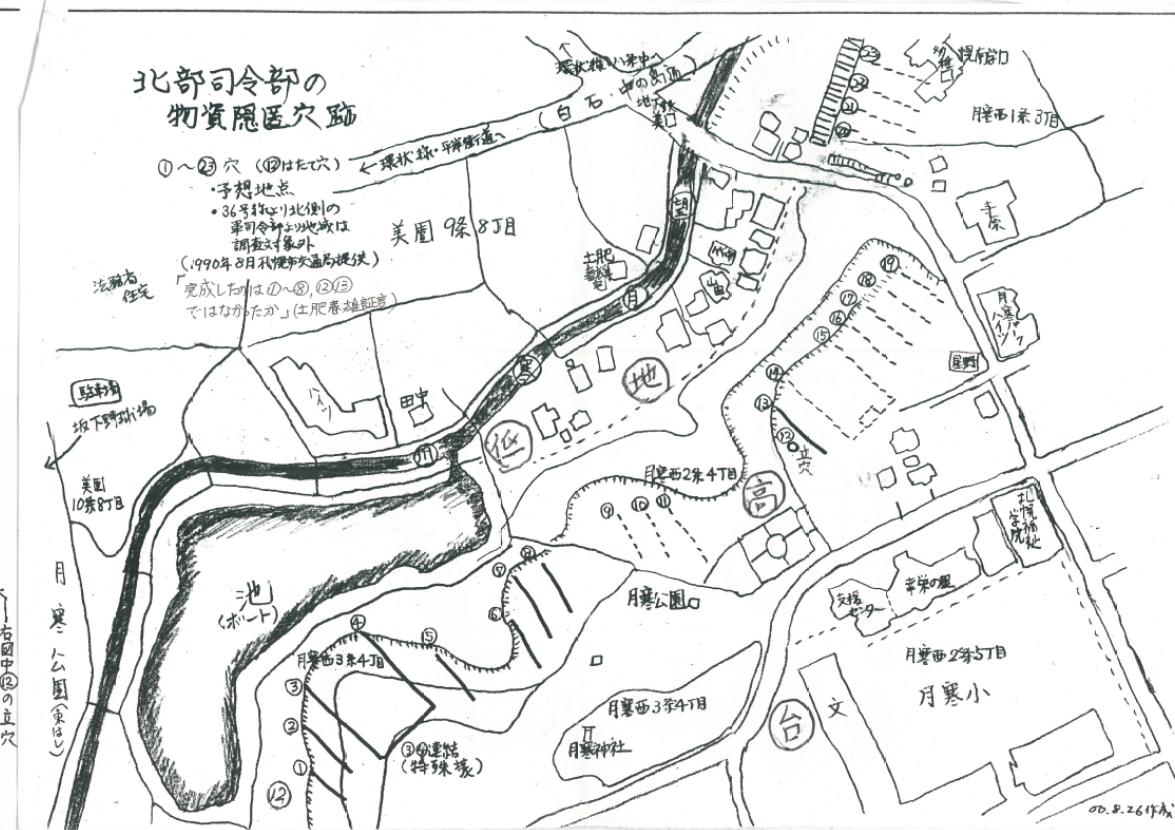
1996年



神社山地下壕（未完成）見取図（高さ2m位 幅2.8～3m）



## 北部司令部の 物資隠匿跡



豊平区  
北部軍地下防空指揮所(作戦室)  
2008年2月解体



豊平区  
北部軍司令部(現月寒中学校の所) 廃後直後(2008年2月)



高台(千城台)にある北部軍司令部を地元の美國の住民は“お城”に見えたといふ。

北部軍司令部防空指揮所

(ほぼそのまま現存。06年3月まで自衛隊が送信所として使用していた。)

- ・場所：豊平区月寒東2条1丁目7（月寒中学校のグラウンドから1本小道を挟んだ後ろ）  
当時、周辺敷地内に通信隊の隊舎や宿舎(今は住宅街)、アンテナの鉄塔（現存）があった。
- ・建設：1942年工事開始、1943(s18)年春完成（突貫工事）
- ・工事：発注元：北部軍司令部經理部  
請負会社：廣野組、田口組、地崎組、鉄道工業
- ・施設：空襲に耐えられるコンクリート製（厚さ1～2m）、地上2F、地下3F  
地下1F～地上2Fまで前半分吹き抜け。地下2Fは自家発電機室、地下3Fは護身室（床に鉄の扉があって、そこから地下道=資料20に通じるとの証言がある。）  
屋根に土、草木、そして高射機関銃を設置。壁の上部を後で黒塗りにしたことである。（概観写真：資料15、内部構造：資料16～19）
- ・労働者：「經理部の労務班は朝鮮人強制連行と使用を担当していた。今の指揮所の場所は当時少し高くて森になっていて、整地した。3年かかるのを1年余の突貫工事だった。強制連行された朝鮮人労働者とタコ部屋労働者を使用したから出来た。」

「地下司令部の根堀は朝鮮人80人位だったようだ。飯場は栄通1丁目あたりの畠の中にあったと思う。側に望月寒川がある。高台と川の間あたりだ。朝鮮人が西岡の方に逃亡し、山狩りが行われた。完成すると地下司令部にNHKの高橋圭三アナウンサーも入って仕事をしていた。」

